

アドビのドキュメントセキュリティ技術が実現する セキュアコラボレーション

製造業におけるサプライチェーン等、ファイアウォールを越えたビジネスプロセスにおける、安全なコラボレーション、機密情報の保護、情報のバージョン管理を実現



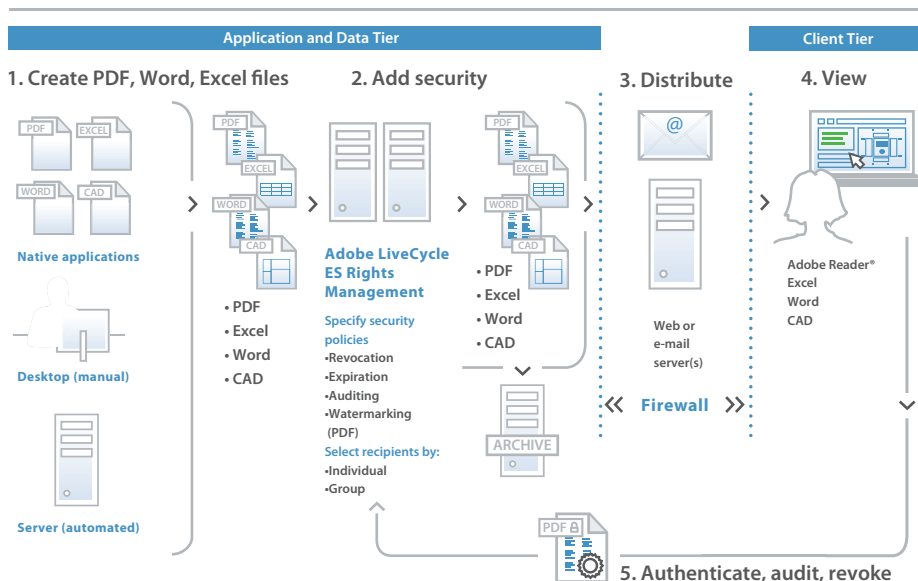
今日のグローバルエコノミーにおいてメーカー各社が競争力を保つには、質の高い製品をコスト効率良く製造することが求められます。それには、製造プロセスのより早い段階から、これまで以上に多くのパートナーやサプライヤとやり取りをすることが必要です。メーカーがこの不可避の課題を実現するためには、ファイアウォールを越えて、世界中のパートナーやサプライヤと機密情報を共有する必要があります。中には、質の良い製品をより低いコストで作ることのできる新興経済国で製造を行うサプライヤもありますが、それらの地域の中には、十分に知的財産権が保護されていない国も存在します。このアウトソーシングの時代にオンラインで共同作業を行えば、機密情報が盗まれたり悪用されたりするリスクは避けられず、メーカーの競争力や業績に痛手を与える結果となることも考えられます。

アドビのドキュメントセキュリティ技術の中でも、Adobe® LiveCycle Rights Management ES が提供する「配布後の情報をコントロール」するDRMテクノロジーを活用することで、設計コラボレーションや提案依頼(RFP)、作業指示、設計変更管理、フィールドサービスといった様々なプロセス全体を通じて、一貫した情報のコントロールを実現し、安全なコラボレーション環境が実現できます。また、メーカーが信頼できるサプライヤやパートナー等の社外組織と情報交換する際においても、ネットワークからの情報漏えいや盗用を防ぐことができます。

このアドビのDRMソリューションは、メーカーによる機密情報ファイルの適切な使用、管理、コントロール、さらに、永続的な情報の保護などのセキュリティポリシーの適用を可能にします。設計や機密性の高い企業情報へのアクセスは、いつでもどこでも、その保管場所や配布方法に関係なく、コントロールが可能です。また、アドビのソリューションは既存の情報システムやワークフローとの統合が容易なので、コストをかけずに、ドキュメントセキュリティの一元管理を効率良く行えます。

このように、アドビのDRMソリューションを活用することで、設計情報の共有、作業指示のやり取り、提案依頼書への回答など、サプライチェーンとのコラボレーションを安全かつ円滑に行うことができ、結果的にメーカーの競争力は確実に強化されます。

Adobe LiveCycle® ES Rights Management Software



アドビのDRM ソリューションがメーカーにもたらす利点

- 知的財産の盗用や悪用の危険性を低減
- 安心してコラボレーションを進め、サプライチェーンをスピードアップ
- ファイアウォールの外に出た機密情報の使用を保護、管理、監視
- 設計プロセスおよびサプライチェーン全体にわたり設計情報の更新状況を管理することにより、経費のかかる設計ミス削減

サプライチェーンの競争力を最大限に

アドビのソリューションを導入したメーカーでは、開発サイクルを加速し、電子ドキュメントによるプロセスを安心して運用できます。このソリューションを利用すれば、誰にいつまでドキュメントへのアクセスを許可し、その操作にはどのような制限を設けるのかを指定するポリシーを適用することにより、ドキュメントの配布後にも使用権限を管理できます。例えば、ドキュメントを人やグループ毎に印刷や内容の抽出、コピーなどを許可するかどうかをコントロールできるのです。共有するドキュメントが悪用されることを防ぐために、機能の一部を無効にすることも可能です。こうしたアクセス権や使用権限は、そのドキュメントが組織外に配布された後であっても、必要に応じて更新や取り消しを行えます。これにより、権限を与えない限りアクセスや操作が行われないよう、企業情報をより確実に保護できるようになります。

機密情報の適切な使用を促進

アドビのソリューションは、メーカーの既存の文書管理システムおよびセキュリティインフラを活用し、そのドキュメントコントロール機能をファイアウォール外にまで拡張します。例えば、誰が設計や作業指示書を使用しているのかといったことを監視できるほか、監査ログを見れば、ドキュメントがいつ開かれ、印刷、保存されたかなどの操作の履歴がすべてわかります。また、機密情報の使用状況に関するレポートを作成することもできます。さらに、ファイルが不正に使用されている疑いがあれば、そのファイルに対するサプライヤーのアクセス権を取り消すことも可能です。

設計ミスによる経費の無駄を削減

アドビのDRM ソリューションを利用すれば、メーカーは、設計プロセスだけでなくサプライチェーン全体にわたり、設計情報の更新状況を追跡管理できます。ドキュメントがどこにあるかは関係ありません。これは設計変更指示書を配布する際に大きなメリットをもたらします。例えば、新しい設計変更指示書が発行されると、それに伴い無効となったファイルへのアクセスが取り消され、更新されたファイルへのリンクが提供されます。従って、関係者が古いファイルにアクセスしようとした場合、自動的に最新版のドキュメントに接続されることとなります。これにより、経費のかかる設計ミスや、無効な指示に基づいて設計した結果生じる設計変更を未然に防ぐことができます。

安全・確実なコラボレーション

以前はこうした情報の保護を実現することが難しかったので、メーカーはパートナーとの情報のやり取りに、いつもリスクを感じていました。しかし、アドビのDRM ソリューションを導入すれば、この障壁を取り除き、社外でも機密情報やプロセスを常にコントロールできるため、より強固な信頼関係を築くことができ、結果的に高い競争力を維持することが可能になります。

機密情報を盗用や悪用から保護する目的を持つこのソリューションを利用することで、メーカーでは、アクセス権や使用権限の設定どおりに、より安全・確実に情報をやり取りできます。また、ドキュメントの利用可否を管理し、常に最新の情報を提供することもできます。使用権限が適正に管理されていれば、メーカーは世界中のサプライヤーやパートナーと安心して効率良く情報の共有や共同作業を行えます。

利益の拡大へ

メーカーは、アドビのDRM ソリューションを利用して、世界各地のパートナーやサプライヤーと機密情報を安全にやり取りするとともに、サプライチェーンのスピード化を図ることができます。このソリューションは、ファイアウォール外に配布されたビジネスドキュメントの使用を制限、管理、監視することによって、機密情報の盗用や悪用の危険性を低減します。また、企業の壁を越え、サプライチェーン全体にバージョン管理を拡大することにより、経費のかかる設計ミスも削減されます。アドビのデジタル権限管理ソリューションによって、メーカーはサプライチェーンのあらゆるステップにおいてパートナーとより強力な関係を築き、その結果、優れた製品の迅速な市場投入と競争力の強化を実現できます。

詳細情報

アドビのデジタル権限管理ソリューションについて詳しくは、
www.adobe.com/jp/products/server/policy
をご覧ください。
アドビの製造業向けソリューションについては、
www.adobe.com/jp/manufacturing
をご覧ください。



アドビ システムズ 株式会社
〒141-0032 東京都品川区大崎 1-11-2
ゲートシティ大崎 イーストタワー
www.adobe.com/jp
Adobe Systems Incorporated
345 Park Avenue, San Jose, CA 95110-2704 USA
www.adobe.com

Adobe、Adobe ロゴ、LiveCycle、および Reader は、Adobe Systems Incorporated (アドビ システムズ社) の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。その他すべての商標は、それぞれの権利帰属者の所有物です。

© 2007 Adobe Systems Incorporated. All rights reserved. Printed in Japan.
95010188 12/07